

令和7年度
大学地域連携活動支援事業
中間報告会

小規模自治体における ポピュレーションアプローチ型 「親子あそび教室パッケージ」の 開発と実践



国際医療福祉大学 作業療法学科

3年 小島風輝 山口 拓人

教員 関森 英伸

国際医療福祉リハビリテーションセンター

なす療育園 小澤 巴菜

活動概要と目的

- 本活動は、栃木県那須郡那須町の子育て支援センターと国際医療福祉大学、なす療育園が連携して実施している。
- 本活動では、「親子遊び教室」の課題に対して、従来型の「親子遊び教室」を現在の小規模自治体や保護者の実情に合わせたポピュレーションアプローチ型「親子遊び教室パッケージ」開発に繋げ、次年度以降に本パッケージを県内で協力可能な小規模自治体に導入し、すべての子どもと保護者を小規模自治体で支える『子育て支援体制』の一つのモデルにすることを計画している。
- 本事業の主な目的は『子育て支援』であり、早期から発達の気になる子どもや子育てに不安や困り感を持つ保護者を支えることである。

活動地域の現状

- 栃木県那須郡那須町について
人口約23,000人の小規模自治体。
近年は人口減少とともに出生数も減少傾向。

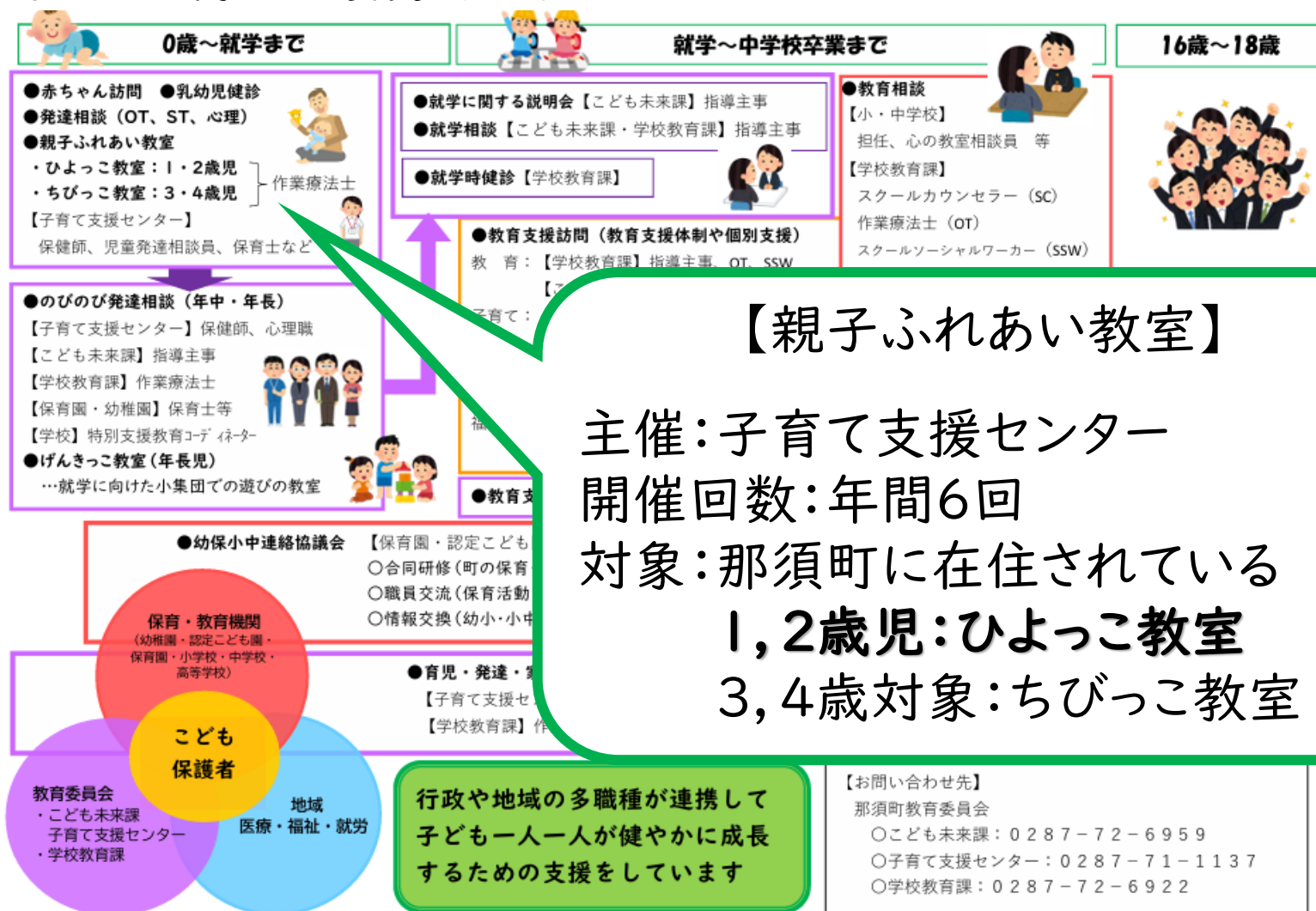


出生数（那須町の統計書）

H22	158
H27	132
H28	145
H29	111
H30	92
R1	107
R2	81
R3	85
R4	77
R5	55
R6	54

子育て支援体制

那須町の子育て支援体制



従来型親子遊び教室の課題

- 従来の親子遊び教室の多くは、保健師や保育士が中心となり、乳幼児健診事業や子育てサロン事業、巡回相談事業などを通して、“**気になる子ども**”や“**気になる保護者、子育てに不安を抱える保護者**”に対して「親子遊び教室」参加を促し、支援が行われてきた。**(=ハイリスクアプローチ)**

***ハイリスクアプローチの対象は高リスク群で役割は主として二次予防**

- ハイリスクアプローチでは、子育てや集団生活上の課題を未然に防ぐ効果が期待される一方で、**以下の課題**があった。

- ①「親子遊び教室に誘われる=何か問題がある」と感じ、参加をためらう保護者が存在する
- ②小規模自治体では、ハイリスク児の数自体が限られ、対象児だけでは**集団としての教室運営が困難**
- ③核家族化が進み、障がいの有無に関係なく、子育てに対する保護者の自治体事業利用の**限局化**

課題解決に向けて

- 活動地域の現状と課題に基づき、乳幼児期から青年期まで、地域で成長・発達していく子どもたちとそれを支える保護者を包括的に支援するには、従来のような「ハイリスクアプローチ型親子遊び教室」に留まらず、各自治体で暮らす子どもおよび保護者すべてを対象とした早期子育て支援を行う「**ポピュレーションアプローチ型親子遊び教室**」の導入が一つの解決策になるのでは…。

＊ポピュレーションアプローチとは…

集団に対して健康障害へのリスク因子の低下を図る方法。
対象者は低リスク群、境界域を含む集団全体で、主の役割は一次予防。

実施内容 取り組み①

「親子遊び教室パッケージ」に向けた担当者間の企画・準備

- **実施者**: 那須町子育て支援センター職員
国際医療福祉大学学生及び教員
なす療育園作業療法士
- **対象者**: 保健師・保育士
学生および教員、なす療育園作業療法士
- **実施内容**: カンファレンス実施
 1. 開催日時の選定とタイムスケジュール調整
→ 1歳6か月健診と同日での開催の可能性検討
 2. 展開する活動・遊び等の検討
→ これまでの教室を参考に検討
 3. 教室内での共通の観察項目や支援の視点を整理
→ ルーブリック評価の作成、検討
 4. 「親子遊び教室パッケージ」の有用性検証のアウトカム検討
→ アンケートの作成、運用

Ⅰ. 日程調整

カンファレンスの様子



タイムスケジュール

時間	流れ
9:15	健診受付 身体計測
9:30	ひよっこ教室打合せ
9:40	発達確認
9:45	ひよっこ教室受付
10:00	ひよっこ教室
11:30	ひよっこ教室カンファレンス 昼食・休憩
13:00	虫歯予防講話
13:30	内科・歯科診察

*OT=作業療法士

2. 遊びの検討・物品準備

	遊び内容	必要物品
①	手遊び・絵本	マット・絵本
②	お馬の親子	なし
③	空飛ぶじゅうたん/ブランコ	バスタオル
④	サーキット	島・トンネル・滑り台など
⑤	新聞紙・ホイル遊び	新聞紙・ホイル
⑥	おもちゃ遊び	おもちゃ(車・電車・ままごと・楽器など)
⑦	洗濯ばさみ遊び	洗濯ばさみ
⑧	クールダウン(ミスト遊び)	アロマオイル・ミスト

その他:お知らせチラシ、読みもの(遊び役立ち冊子)

3. ルーブリック評価導入の背景

- 背景:

親子遊び教室終了後の多職種間カンファレンスにおいて、
子どもの発達状況や保護者の関わり方について、
共通認識を持つことに難しさを感じていた。

「どのような視点」「どのように記録」「どのように経過を追う」…

- 目的:

子どもと保護者の状態を多職種共通の枠組みで把握するし、
皆で経過を追うツール(ルーブリック評価表)を作成すること

- *ルーブリック評価とは

人を評価する方法で絶対評価の一つ。

対象者の成果や行動が「どの段階に達しているか」を示す基準を
表にまとめて評価する方法。

基準が明確に示されるため、何を目指せばよいか理解しやすい。

3. ルーブリック評価導入の経過

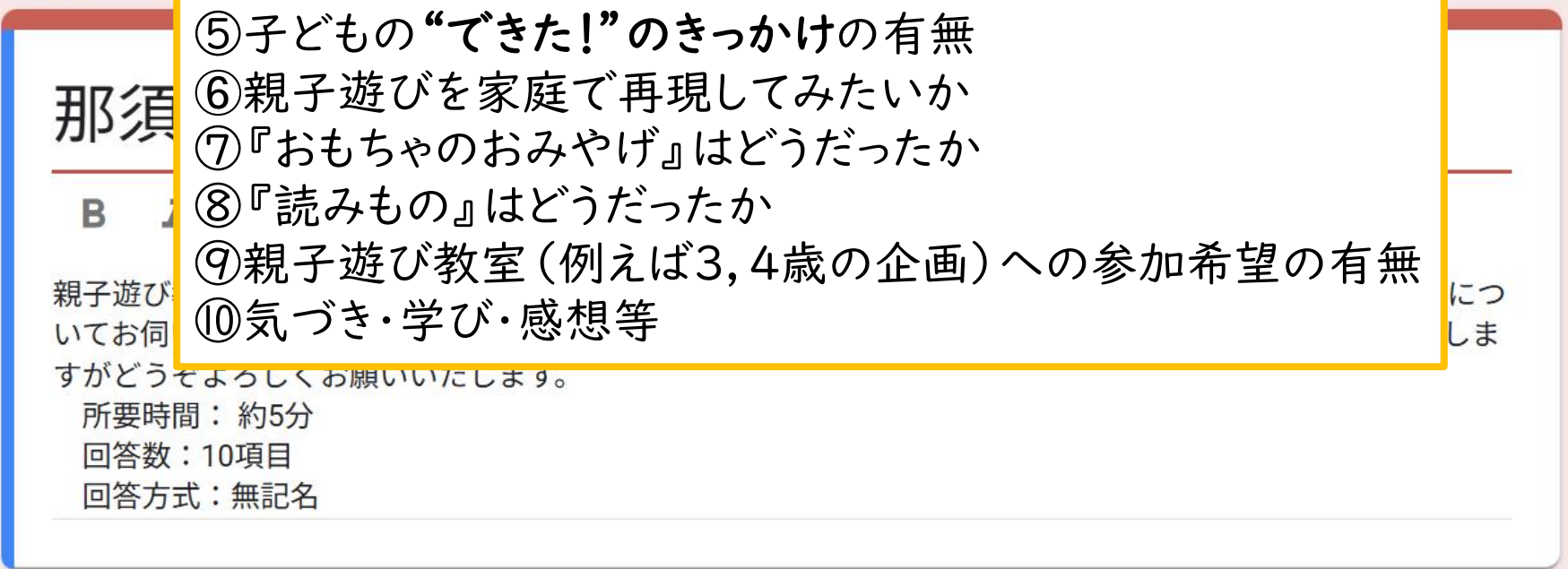
＊ルーブリック評価については
昨年度から研究を進めてきた

1. 文献レビューの実施
2. 親子遊びの狙いの再共有
3. ルーブリック(案)の作成と試用
4. フィードバックと修正
5. 完成版ルーブリックの使用
6. 有用性の検討
完成版ルーブリック使用へ

振り返りシート					Ver.2025 (ひよこ教室)	
※このシートは、親子ふれあい遊び教室における子どもと保護者の様子を大まかに把握することを目的としています					記入日:	
	氏名	a	性別	男		
	生年月日	2024/2/24	年齢	1年6ヶ月		
	参加回数	1回目	園利用状況			
	フォロー歴	あり	特記事項			
II. 子どもの様子						
(I) 子どもの様子として最も近いものに○をつけてください						
番号	チェック項目	4	3	2	1	特記事項
1	子どもが場・遊びに慣れたと感じられたタイミング 【場面適応】	導入(手遊び・絵本)から慣れて参加	前半の活動(お馬、空飛ぶじゅうたん/ブランコ)から慣れて参加	前半最後の活動(サーキット以降)または、後半の活動(新聞紙・ホイル遊び以降)から慣れて参加	導入からクールダウンまで慣れずに終わった	
2	親子遊びの中の過ごし方 【基本的信頼・場面適応】	活動中は親から離れて、終始活発に活動に取り組み、活動後は親の近くに戻る	遊びにより保護者から離れて遊ぶことがある	終始保護者から離れず促しなくても何とか遊ぶ、または、どの活動も長続きせず終わるまで過ごす	終始保護者から離れず促しても何も行わない、または、終始泣きながら過ごす	
3	表情・感情の表出 【興味関心・喜び】	喜怒哀楽がとても豊か(とても楽しめている)	喜怒哀楽がまずまず豊か(まずまず楽しめている)	喜怒哀楽が読み取り難い(緊張・硬さあり)	喜怒哀楽が読み取れない(無表情)	
4	保護者/大人との関わり 【基本的信頼・場面適応】	どの場面でも困った時・心配な時など、保護者/大人を求める様子が適度に見られる	場面により困った時・心配な時など、保護者/大人を求める様子が過度に見られる	保護者/大人を求める様子が弱くない、または、保護者/大人を強く求める	常に保護者/大人を求めずに一人で過ごす	
5	他児との関わり 【場面適応・社会性】	どの場面でも他児を意識する様子があり、保護者が傍にいれば他児と関わりがもてる	場面により他児を意識する様子があり、保護者が傍にいれば他児と関わりがもてる	他児を意識する様子はほとんどない、保護者が傍にいれば一緒に過ごす	他児を意識する様子はなく、保護者が促しても他児と過ごすことは難しい	
6	言葉かけ・状況の理解 【言語理解・状況理解】	言葉かけまたは周りの状況を見てまず理解している	言葉かけまたは周りの状況を見てまずまず理解している	言葉かけまたは周りの状況を見てあまり理解していない	言葉かけまたは周りの状況を見て全く理解していない	
7	意味のある言語/非言語の表出 【言語・非言語表出】	2語文の表出、または、自発的な非言語での表出(指差し、クレン等)に加えて、「もう一回」等の言語表出が見られる	相手の対して単語の表出、または、自発的な非言語での表出(指差し、クレン等)が見られる	場面・相手に関係なく、単語表出が見られる、または、独り言が見られる	単語表出が見られる、または、言語・非言語表出が見られない	
8	他者との視線の合い方 【社会性】	どの場面でも、他者しっかりと視線が合う	場面により他者しっかりと視線が合う	他者と視線が合いにくい/合うが短く途切れる	他者と視線が合うことはない	
					合計	／ (24) 32
(2) 子どもが特に興味・関心があると感じられた活動に○をつけてください(複数可)						
①手遊び・絵本 ②お馬の親子 ③空飛ぶじゅうたん/ブランコ ④サーキット ⑤新聞紙・ホイルあそび(ピリピリ・ひらひら含む) ⑥おもちゃあそび ⑦洗濯ばさみ遊び ⑧ミスト						
(3) 感覚の偏りについてあてはまるものに○をつけてください						
視覚: 過敏・鈍麻 聴覚: 過敏・鈍麻 前庭覚: 過敏・鈍麻 固有受容覚: 過敏・鈍麻 触覚: 過敏・鈍麻 嗅覚: 過敏・鈍麻						
(4) その他、子どもの様子について残しておきたい記録があればご記入ください						
II. ご家族の様子						
ご家族の様子についてお聞きします。ご家族の様子として最も近い様子を○をつけてください。						
番号	チェック項目	4	3	2	1	特記事項
1	遊びの中で子どもをよく観察しているか	子どもをよく観察している	子どもをまずまず観察している	子どもをあまり観察していない	子どもを全く観察していない	
2	子どもを見守るご家族の常態	常に子どもの様子に応じて余裕をもって過ごしている	まずまず子どもの様子に応じて余裕をもって過ごしている	あまり子どもの様子に応じて余裕をもって過ごしていない(表情が硬い・緊張等)	全く子どもの様子に応じて余裕をもって過ごしていない(表情が硬い・緊張等)	
3	子どもからの働きかけへの応答	常に表情・タイミング良く子どもに応じている	まずまず(欲を言えばもう少し適度)に子どもに応じている	あまり表情・タイミング良く子どもに応じない	全く表情・タイミング良く子どもに応じない	
4	ご家族の子どもとの距離感	常に子どもの様子に応じた適度な距離感である	まずまず子どもの様子に応じた適度な距離感である	あまり子どもの様子に応じた距離感がとれず離れすぎる/近すぎる	全く子どもの様子に応じた距離感がとれず、常に離れすぎる/近すぎる	
5	ご家族の働きかけの様子	常に子どもの様子に応じた働きかけ(褒めや応援など)ができる	まずまず子どもの様子に応じた働きかけ(褒めや応援など)ができる	あまり子どもの様子に応じた働きかけ(褒めや応援など)ができない	全く子どもの様子に応じた働きかけ(褒めや応援など)ができない	
					合計	／ (15) 20
その他、保護者の様子について残しておきたい記録があればご記入ください						

2025.11 第59回日本作業療法学会で発表予定

4. アンケートの作成・運用

- 
- 
- ⑩お子さんの年齢
 - ①参加した理由
 - ②活動内容の満足度
 - ③特に印象に残った活動内容
 - ④印象的だった子どもの様子
 - ⑤子どもの“できた!”のきっかけの有無
 - ⑥親子遊びを家庭で再現してみたいか
 - ⑦『おもちゃのおみやげ』はどうだったか
 - ⑧『読みもの』はどうだったか
 - ⑨親子遊び教室(例えば3,4歳の企画)への参加希望の有無
 - ⑩気づき・学び・感想等

親子遊び
いてお伺

すがどうぞよろしくお願いいたします。

所要時間：約5分

回答数：10項目

回答方式：無記名

につ
しま

実施内容 取り組み②

ポピュレーションアプローチ型「親子遊び教室」の実施

- ・ **実施者:** 那須町子育て支援センター職員
国際医療福祉大学学生及び教員
なす療育園作業療法士
- ・ **対象者:** 1歳6か月健診/親子遊び教室対象児及び保護者
- ・ **実施場所:** 那須町子育て支援センター多目的室
- ・ **実施日程:** 隔月第2金曜日(9:45~12:00)
 - ・ 事前カンファレンス・準備
 - ・ 親子遊び実施90分
 - ・ 事後カンファレンス・片付け
- ・ **実施回数:** 5回(うち2回は実施済み)
- ・ **実施内容:**
 1. 親子遊びの提供
 - 「読みもの」(遊び情報)の配布
 2. 「アンケート」回答の依頼・実施



Ⅰ.親子遊び教室の様子

前半（導入と動的活動）の様子



Ⅰ.親子遊び教室の様子

後半(静的活動)の様子



⑤新聞紙・ホイル遊び



⑥おもちゃ遊び



⑦洗濯ばさみ遊び

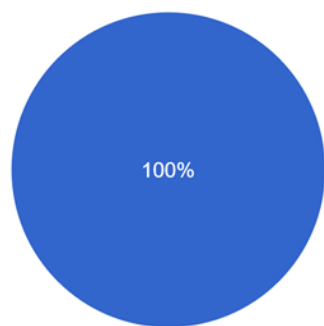
<教室のポイント>

- 準備が容易で“子どもの発達”“親子の関わり”が確認しやすい遊び(動的、静的)を実施
- 活動の展開は「導入」⇒「動的な活動」⇒「静的な活動」とし、子どもたちの様子に合わせて少しずつ活動的にし、後半は少しずつ穏やかな活動(情緒の安定)で設定している
- 家で再現できる“遊び・玩具”を準備、「読みもの」(遊び情報)を配布する
- 教室内で実施し、使った玩具をお土産として持ち帰れるように工夫

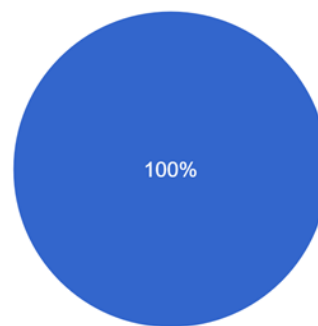
2. アンケート結果より

・結果(9月実施分より:家族)11名参加

⑤お子さんの“できた!”のきっかけ、は見つかりましたか？



⑥今回体験した親子遊びを家庭でも再現してみたいと思いますか？



【親子遊び教室を利用してみて気づき・学び・感想】

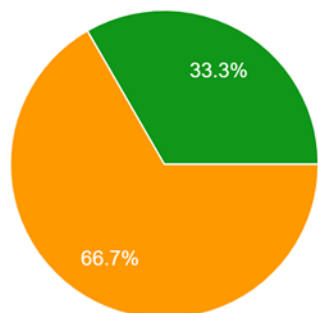
- ・ 託児もあり気兼ねなく参加できるのでとても助かります。
- ・ 家でも実践できることがあったのでやってみようと思います。
お馬さんはよくお家でもやっていたので身体にも心にもいい遊びと知りびっくりしました。
たくさんの人と関わる機会少ないのでよかったです。
- ・ 遊びながらのスタッフのアドバイスが子どもと遊ぶときの気づきや工夫のヒントになります。

2. アンケート結果より

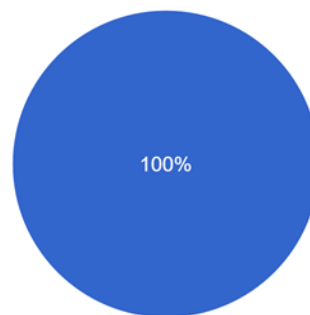
・結果(9月実施分より:学生)5名参加

参加者属性

③親子遊び教室に参加し、作業療法学科でこれまで...学んできた座学や臨床経験は役に立ちましたか？



● 1年
● 2年
● 3年
● 4年



● とてもそう思う
● まずまずそう思う
● あまりそう思わない
● 全くそう思わない

【親子遊び教室 参加後の学生の感想】

◆ 学び・気づき

- ・ 子どもだけでなく、保護者の関わりや表情の変化にも注目する大切さを実感。
- ・ 遊びを通して親子の関係性が豊かになり、遊びの力の大きさを再認識した。
- ・ 支援の際には、子ども本人だけでなく保護者・地域を含めた視点が必要。
- ・ 参加者のニーズを把握し、安心感と信頼関係を育む関わりの重要性を学んだ。
- ・ ルーブリックやカンファレンスを通じた情報共有が、チーム支援の質向上につながると実感。

今後について

- 今後の流れ:

- ① 現在試行中の那須郡那須町における1歳6か月健診時の「親子遊び教室」におけるブラッシュアップ、経過確認
- ② 3歳児健診時用の「親子遊び教室」導入の可能性を検討
- ③ 実施可能な小規模自治体への導入依頼（次年度以降）

- 全親子を対象とするポピュレーションアプローチ型の「親子遊び教室」を通じて、子どもの発達状況や保護者の育児負担に早期に気づき、支援につなげる体制を整備していく。